



こういうときに
役立ちます



クラスの子が
休み始めたとき
どうすれば良いですか

不登校の対応、こういう
ケースではどんな手立てが
ありますか

事例を使って校内研修
をしたいのですが

など



この資料集は、本編と資料編、コラムで構成されています

現状と 基礎知識

第Ⅰ章 長期欠席と不登校等の現状

第Ⅱ章 千葉県教育委員会の取組

不登校に関する文部科学省と千葉県のデータ・千葉県教育委員会の取組

未然防止

第Ⅲ章 新たな不登校を生まないために

「不登校はどの児童生徒にも起こり得る」ことを踏まえた未然防止の取組

初期対応

第Ⅳ章 初期対応（早期発見・早期対応）

早期発見のための取組やポイント・休み始めの対応など

自立支援

第Ⅴ章 自立支援

長期欠席・不登校の様々なケースについての具体的な対応例
社会的自立に向けた支援など

資料編

「児童生徒理解・教育支援シート（試案）」「見立てシート」など

コラム

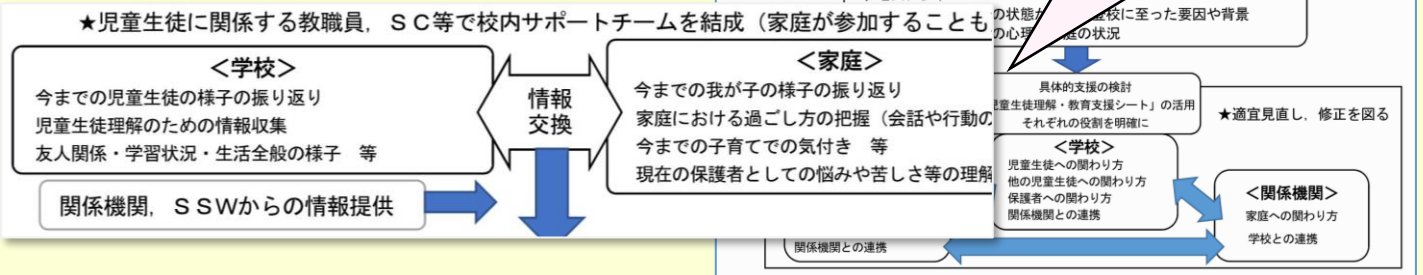
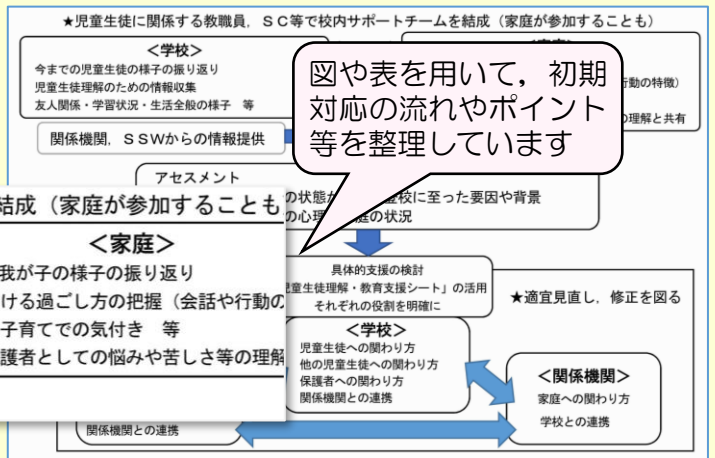
「長期欠席と不登校」「学校における有効なケース会議の持ち方」など

こんな場面で使えます

◎クラスの子どもが休み始めました。どうすれば良いですか？

学校を休みそうな児童生徒への対応を含めて、初期対応の流れやポイント等を解説しています。知りたい内容に応じて、各節を参照してください。(⇒P50~P66)

- 欠席1日目をどうとらえるか
- 登校渋りが見られたときの対応(家庭への支援)
- 組織的対応について
- SCやSSWのできること など



◎保護者とはどのように連携すれば良いですか？

第三章(例:左下図P34)では日頃からの保護者との信頼関係づくり等について、第四章(例:右下図P57)・第五章では個別事例での対応例等について具体的に紹介しています。

③ 保護者との関わり方<具体例>

③ 保護者との関わり方<具体例>

以下では、訪問相談担当教員(P7参照)の紹介をします。

ア 電話では双方向の情報交換を保護者が学校からの電話を前向きに捉えるように促す。見えてもらうことで、児童生徒について学級担任と話ができるようになります。

・時間に余裕を持って電話する

日頃から進んで挨拶し、児童生徒の頑張りを感じて伝え、日頃からの信頼関係を積み重ねていきたいと思います。

訪問相談担当教員(資料集P7参照)の実践を踏まえて、保護者との関わり方のヒントを紹介しています

・「家庭訪問と来校」のどちらが良いか、事前に保護者の意向を伺うことも必要

② 過去に不登校や、登校渋りを経験している児童生徒に対して

不安要因・タイミング別に対応例を紹介しています

不安要因	進級・進学タイミング
人間関係	家庭からの児童生徒の友人関係などについての情報を基に、学級編成を検討する
「仲の良い友達と」	
「〇〇さんは苦手」	

家庭訪問の留意点を掲載しています

参考 不登校の児童生徒宅へ家庭訪問する際

不登校の児童生徒宅へ家庭訪問する際の留意点

◎要因別の対応のヒントが欲しいのですが...

要因別に対応例を詳しく掲載しています。(⇒P70~P88)

- 掲載している要因別ケース
- 「無気力」「いじめ」「非行傾向」「発達障害」
- 「家庭に係る要因(経済的な問題)」
- 「家庭に係る要因(児童虐待)」
- 「こころの病気が疑われる場合」
- 「ひきこもり傾向」
- 「自殺をほのめかした場合」
- 「意図的な欠席」
- 「居所不明」



(2) いじめ

～事例～ 小学6年生 9月以降、断続的に欠席

対応例

事例の概要

対応例の紹介

専門用語の解説

大切なポイントをまとめています

【対応のポイント】

- ◇いじめがあったことをしっかり
- ◇被害児童の安全・安心を守るこ

※PTSD (心的外傷後ストレス障害) の断

Stress Disorder) の断

実際の危険にあう体験

◎再登校するときのポイントはありますか？

学校復帰に向けての働き掛けや再登校の準備、再登校当日の対応とその後のフォローについて、具体例もあげてポイントをまとめています。(⇒P94~P97)

資料集では、別室登校における留意点や、千葉県の取組である不登校対策推進校「校内不登校児童生徒支援教室」における実践例も紹介しています。別室登校や支援教室の運営についてより詳しく知りたいときは、資料集と併せて、子どもと親のサポートセンターの作成した「支援教室運営の手引き(試案)」(サポートセンターホームページに掲載)も参考にしてください。

◎進路選択について情報が欲しいのですが…

特色ある県立高等学校として「地域連携アクティブスクール」「定時制」「三部制定時制」「通信制」を紹介するとともに、それ以外の進路についても幅広く取り上げています。(⇒P106~P113)

- 広域通信制高等学校とサポート校
- 高等学校卒業程度認定試験
- 転退学時の対応
- 就労への支援(サポステ・ハローワーク)

特色ある県立高等学校について、特徴的な取組や日課表、卒業生の声などを掲載しています

(2) 再登校前日までの準備

再登校に当たっては、退いた教室で迎えられるよう配慮するとともに、徐々に学校生活への適応を図ってほしいような指導上の工夫を行うことが重要です。そのためには、児童生徒の状況を学校の教職員が共通理解し、支援体制を整えておくことも大切です。

「～してみようかな」そんな言葉が出てきたら

受入体制の検討

安心して居場所の確保 学級に意しておきましょう。(例:保健室)

再登校の準備について教職員間で共通理解を図れるように、ポイントを整理しています

③ 三部制定時制高等学校

定時制高等学校の区分の中に、三部制定時制高等学校があります。三部制定時制高等学校は夜間のみ授業を行う定時制高等学校と違い、午前部・午後部・夜間部の三部制で成り立っています。入学希望者は、「中学校時代の不登校経験を克服したい」「振り返るには手遅れだが高等学校は卒業したい」「日中空いている時間を働きたい」など各々のニーズに合った部を選択し入学できます。

下の日課表に示したとおり、入学後は自身の所属する部で1日4時間授業を受けて4年で卒業しますが、他の部の時間分の授業を受ければ3年で卒業することも可能です(三修制、他校間修)。千葉県内には平成29年度現在、県立生浜高等学校と県立私戸南高等学校の2校の三部制定時制高等学校があります。

◎県立私戸南高等学校の紹介(参考:県立私戸南高等学校ホームページ)

毎年、私戸南高校に入学してくる生徒の約半数以上が本校で卒業しています。

◎理解できる授業の工夫

- ・習熟度別授業(1,2年生に合わせた基礎を学んでいます)
- ・チームティーチング

少人数授業、色め組り少人数制で授業を行なっています。

◎充実したサポート体制

- ・スクールカウンセラー

私戸南高校は、スクールカウンセラーが随時2日待機しています。生徒は誰でもカウンセリングルームを利用したり、カウンセリングが受けやすくなっています。

研修で使えます

◎事例を使って校内研修を行う

<研修の流れの例> 60分の想定

時間(分)	研修内容	留意点
5	1 資料集の「事例」を読み、必要な情報を整理する。	⇒質問を受ける事例提供担当者を決め、事例における詳細な想定を考えておくが良い。
10	2 少人数(5人程度)のグループをつくり、対応のポイントや留意点、具体的な支援方法を話し合う。	⇒模造紙や付箋を使うとまとめやすい。
15	3 出てきた意見をグループ毎にまとめ、発表する。	
2	4 資料集の「対応のポイント」を配付して各自読む。	
15	5 自分たちが話し合った内容と照らし合わせながら、気付いた点や地域にある関係機関などについてグループで話し合う。また、各自で「キーワード」を検索して得た情報も参考にする。	⇒ポイント例が全てではなく、ほかにも地域にある資源を活用する等の意見を尊重する。
10	6 「対応のポイント」から気付いた点について、グループ毎に発表し、全体で話し合う。	⇒参加者が実際の事例で行った対応についての話が聞けると良い。
3	7 研修のまとめをする。(振り返り)	

○要因が複数考えられるケース(⇒P90~P93) *実際の資料集では事例と対応のポイントが見開きになっています

(11) 要因が複数考えられるケース ~事例~

事例1

A子は小学5年生の、ネットのSNSで知り合った人から誘われて、6年生に誘われて、学校編成があり、学校担任も母に相談して、母も同意して、A子はその後登校することはなかった。

事例1~対応のポイント

「学校における人間関係」

「進級時や学級担任が替わったこと」

「ネットいじめ」

「キーワード」

「ネットいじめ」

不登校の要因として推測されるものを整理

「キーワード」は、インターネットで関連する情報を検索する際に活用してください

対応のポイント例を紹介(ここに記載している以外のポイントも考えられます)

